

伊丹ルーテル教会 顕現節第2 主日礼拝

2021年1月17日

前奏：

招きのことば：詩編 139 編 13-18 節

それはあなたが私の内臓を造り、母の胎のうちで私を組み立てられたからです。

私は感謝します。あなたは私に、奇しいことをなさって恐ろしいほどです。

私のたましいは、それをよく知っています。私がひそかに造られ、地の深い所で仕組まれたとき、私の骨組みはあなたに隠れてはいませんでした。

あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが、書きしるされました。私のために作られた日々が、しかも、その一日もないうちに。

神よ。あなたの御思いを知るのはなんとむずかしいことでしょうか。その総計は、なんと多いことでしょうか。それを数えようとしても、それは砂よりも数多いのです。私が目ざめるとき、私はなおも、あなたとともにいます。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。

思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。

(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。 **アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

心から感謝をいたします。今朝ともに礼拝にあずかり、み言葉をいただいて一週間を始めます。ここであなたの赦しをいただきます。新たにいのちをいただきます。ここから感謝をもって新しい一歩を踏み出します。人々を赦して共に住む一週間、神様のまことをもって正しく歩む一週間となりますように。福音の証し人として人々にイエス様の福音をお伝えすることができま

すように。そして、愛し合い、高めあう一週間となりますように。あなたは私たちを大切にしてください。あの大きな地震災害から26年が経ちました。いろいろな苦勞や犠牲を通りました。別れや悲しみがありました。私たちの多くは絶望とあらめを経験しました。その中であなたは私たちをいたわり支え、互いに覚えあって歩むことができるように導いてくださいました。

あなたは私たちのすべてをご存知でいらっしやり、羊のように迷いやすい私たちをかえりみて、よい羊飼いとて養ってください。私たちを赦し、私たちをあなたの御手の中で育て、私

たちを用いてください。新型コロナ・ウィルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：1コリント6章12-20節

「わたしには、すべてのことが許されている。」しかし、すべてのことが益になるわけではない。「わたしには、すべてのことが許されている。」しかし、わたしは何事にも支配されはしない。食物は腹のため、腹は食物のためであるが、神はそのいずれをも滅ぼされます。体はみだらな行いのためではなく、主のためにあり、主は体のためにおられるのです。神は、主を復活させ、また、その力によってわたしたちをも復活させてくださいます。あなたがたは、自分の体がキリストの体の一部だとは知らないのか。キリストの体の一部を娼婦の体の一部としてもよいのか。決してそうではない。娼婦と交わる者はその女と一つの体となる、ということを知らないのですか。「二人は一体となる」と言われています。しかし、主に結び付く者は主と一つの霊となるのです。みだらな行いを避けなさい。人が犯す罪はすべて体の外にあります。しかし、みだらな行いをする者は、自分の体に対して罪を犯しているのです。知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。だから、自分の体で神の栄光を現しなさい。

福音書朗読：ヨハネによる福音書1章43-51節

その翌日、イエスは、ガリラヤへ行こうとしたときに、フィリポに出会って、「わたしに従いなさい」と言われた。フィリポは、アンデレとペトロの町、ベトサイダの出身であった。フィリ

ポはナタナエルに会って言った。「わたしたちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いてある方に会った。それはナザレの人で、ヨセフの子イエスだ。」するとナタナエルが、「ナザレから何か良いものが出るだろうか」と言ったので、フィリポは、「来て、見なさい」と言った。イエスは、ナタナエルが御自分の方へ来るのを見て、彼のことをこう言われた。「見なさい。まことのイスラエル人だ。この人には偽りが無い。」ナタナエルが、「どうしてわたしを知っておられるのですか」と言うと、イエスは答えて、「わたしは、あなたがフィリポから話しかけられる前に、いちじくの木の下にいるのを見た」と言われた。ナタナエルは答えた。「ラビ、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。」イエスは答えて言われた。「いちじくの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。もっと偉大なことをあなたは見ることになる。」更に言われた。「はっきり言うておく。天が開け、神の天使たちが人の子の上に昇り降りするのを、あなたがたは見ることになる。

讚美歌 365 番

- 1 わが主イエスよ、愛の御手に 身もたまをもゆだねまつり、禍(まが)に幸に われ言わまし、
 <繰返し> 「主よ、みこころ なさせたまえ」
- 2 憂いの雲 胸をとざし、涙の雨袖にかかり、わが望みは消えゆくとも <繰返し>
- 3 儂き世を渡る時も、天つ家に昇る日にも、ただみむねに任せまつらん <繰返し> **アーメン**

説教：「来て、見なさい」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

神さまはあなたをよくご存じで、あなたを導いてくださいます。あなたの今をよく知っておられます。先週のあなたがどんな思いで一週間を過ごされたか、今週からどんな思いで歩むのか、すべてをご存知です。そして、そのあなたを受け止め、あなたを赦し、あなたを強めて、あなたがイエス様と共に歩めるように導いてくださいます。

イエス様は公けの生涯に入るとき、洗礼をお受けになりました。私たちの人生や私たちの罪をともに担ってくださいました。そして、荒野で誘惑をお受けになり、聖書のみ言葉をもって打ち勝たれました。私たちと同じように、イエス様も誘惑を受けてたたかってくださいました。私たちが人間として味わう誘惑は、神さまのことよりも自分の生活を優先する心、貪欲な心、甘えた心をついてきます。イエス様は同様の誘惑にみ言葉をもって打ち勝ってくださいまして、その勝利を洗礼によって私たちにも与えてくださいます。

その次になされたのは弟子たちを召し集めることでした。普通は弟子になりたい人が先生をお願いします。イエス様は反対でした。イエス様がお弟子を呼んでくださいます。

イエス様は旅の途上でフィリポに出会い、「わたしに従いなさい」と言われました。詳しくは書かれていませんが、フィリポのすべてをご存知のイエス様がフィリポに目をとめてお声をかけられ、フィリポはそのお言葉によってイエス様に従い始めました。イエス様に従うというのは、文句をいわず黙って従うというのではなく、わからないことはイエス様に尋ね、イエス様が教え導いて育ててくださるという関係です。フィリポは同じヨハネの福音書14章でイエス様に、私たちに父なる神様を示してください、とお願いした人です。自分をしっかりと持っていて、信頼できるとわからないと納得しない人です。イエス様はそのときにフィリポに、わたしを見たものは父を見たのである、と言われ、またわたしは父に願って聖霊を遣わして、あなたが信じていることができるように助けてくださると丁寧に教えてくださいました。フィリポはそのようにイエス様に育てていただいた弟子です。

フィリポはアンデレヤやペテロと同じでガリラヤ地方の小さな村、ベトサイダの出身と書かれています。イエス様の弟子になってすぐにフィリポは考えました。こんなすばらしい方に大切な友達のナタナエルも一緒に従うことができたらどんなにすばらしいだろう、そうだ、探しに行こう。ナタナエルはヨハネ21章2節で、ガリラヤの湖のほとりではかの弟子たちと一緒に復活されたイエス様に出会っていますが、そこにはナタナエルはガリラヤのカナの出身と書いてあります。ベトサイダとカナはガリラヤ地方のいなかの村でした。フィリポはナタナエルを探し出してイエス様に出会ったことを語りました。私たちにも同じ思いが与えられます。イエス様を知ると、誰か大切な人に分かち合いたくなる思いです。

イエス様のお弟子は、このように、イエス様が直接お呼びになった人、友達に誘われてイエス様に紹介された人、ペテロのように兄弟に誘われた人など様々です。しかし、偶然に誘われたように思われる場合も、イエス様がそれもご存じで愛と真実をもって導いておられることが、イエス様とナタナエルとの出会いを通して知ることができます。

フィリポはナタナエルに言いました。「わたしたちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方に出会った。それはナザレの人で、ヨセフの子イエスだ。」フィリポにとってナタナエルは旧約聖書の教えを大切にしている仲間だったのです。ナタナエルと一緒に待ち望んでいた救い主に出会った、と報告しています。ほら、となりの村ナザレの人で、ヨセフの子のイエスだ、と紹介しています。友人と自分の共通の関心と希望を土台にして、私はイエス様に出会った、と報告することが伝道です。

ナタナエルは驚いたに違いありません。そしてそれはあり得ない、と思ったのです。ナタナエルいなかに住んでいても旧約聖書をよく知っていたイスラエル人でした。都から北に遠く離れたナザレではなく、都から少し南にあるダビデの町、ベツレヘムでお生まれになるはず、と考えていたかもしれません。また、となりの小さな村のナザレのことはよく知っていました。あ

の大工のヨセフに救い主である子どもがいたのだろうか、と思ったのかもしれませんが。それで「ナザレから何か良いものがでるだろうか」と言いました。思い込みや固定概念があったのですね。常識的に考えたのです。

フィリポは一言「来て、見なさい」と伝えました。ナタナエルが聞いてすぐにそう思うのもよくわかるけれど、実際にお目にかかったらわかるよ、と勧めたのでした。イエス様との出会いをつくること、今でいうと、み言葉の語られるところにお誘いするということです。

その勧めにナタナエルは従いました。そしてイエス様のところに行きました。するとイエス様は近づいてくるナタナエルを見て、「見なさい。まことのイスラエル人だ。この人には偽りが無い」と言われました。イスラエルの語源となっているのは、旧約聖書の登場人物のヤコブです。ヤコブは兄のエサウをだまして、長男の権利をかすみ取った偽りものでした。家族から逃げていかなければならなくなりました。ヤコブ自身が人々の偽りによって翻弄されました。ヤコブは様々な経験ののち、エサウに再会する前、旅の途中で神さまと出会いくみうちをしました。あなたの祝福をいただくまでは離しません、と、必死で神さまの助けを求めたのです。そのときに神さまはこれからはヤコブではなくイスラエルと呼ばれる、と言われたのです。

真のイスラエル人、ナタナエルには心に偽りが無い、とイエス様は言われたのです。ナタナエルは「どうして私をご存知ですか」と尋ねました。イエス様がすべてのことをご存知であることに不思議に思い始めています。イエス様は、「わたしは、あなたがフィリポから話しかけられる前に、いちじくの木の下にいるのを見た」と答えられました。

ナタナエルはフィリポに言われて自分からイエス様に会いに来たと思っていましたが、実はイエス様にお出会いする前からイエス様は自分のことをすべてご存じでいてくださったのだ、と知ったのです。フィリポを通して聞いていました、というのではなく、あなたのことを知っている、と言われたのです。当時は暑さをしのぐため大きな葉をつけるいちじくの木の下で人々は集まって聖書の学びや祈りの場所として用いたり、自宅の庭に植えて黙想をしたりしました。ナタナエルは自分の暮らしをすべてご存知のイエス様にお出会いで来たことに喜びました。フィリポの言うとおりで、この方こそイスラエルの王だ、と信仰を告白したのです。

よかったですね。フィリポに連れてきてもらったナタナエルは、フィリポの友人という間接的な関係ではなく、イエス様がナタナエル自身を知っていてくださったことで信頼を厚くしたのです。私たちの中にも、自分から興味をもって教会に来た、という人、家族と一緒に教会に来ていた、という人、友達に誘われた、という人など、いろいろなイエス様とお出合いがあったことでしょう。でも、ナタナエルが気付いたように、イエス様はあなた自身をよくご存じで、あなたを導いてくださるお方です。のちに弟子たちはイエス様から「わたしはあなたがたを捨

てて孤児とはしない、心を騒がせないで、神を信じ、わたしを信じなさい」と言われています。私たちも様々なことに心騒がせるのですが、わたしを知ってくださっている神さまを信じ、イエス様に信頼して歩むことができる幸いを味わいます。

ナタナエルは「ラビ、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です」とイエス様をしんじる告白をしました。弟子になったナタナエルにイエス様は続けておっしゃいました。「いちじくの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。もっと偉大なことをあなたは見ることになる。はっきり言うておく。天が開け、神の天使たちが人の子の上に昇り降りするのを、あなたがたは見ることになる。」

これはイスラエルと名前をつけられたヤコブの経験した出来事に基づくお話です。ヤコブは兄を裏切って逃げていく途上で、夜眠っていると、天が開けて天から梯子のようなものが下りてきて、天使がのぼりくだりするのを見ました。そして神さまの約束のことばをいただき、励まされて旅をつづけました。イエス様は、天が開けて、天使たちが人の子、つまりイエス様の上に上り下りするのを見る、と言われました。それは天から降りてきた梯子が、イエス様ご自身だということをやがて見ることになる、ということです。のちにイスラエルと名付けられたヤコブがいただいた約束が、まことのイスラエル人であるナタナエルはイエス様によって成就することを見ることになると言われたのでした。

人から神様に向けてかけた梯子は、神さまに届きません。私たちの知恵も、私たちの努力も、私たちの我慢も、神さまに届きません。けれども神さまの方から、私たちに届くため、梯子を下ろしてくださったのです。それがイエス様だということです。

イエス様はまことの神様ですが、まことの人となってお生まれ下さり、神さまと私たちを隔てる私たちの罪を背負って、十字架で死んで償ってくださり、神さまの赦しを完成しました。それを信じる者に洗礼によって与えてくださいます。

ナタナエルはやがてイエス様の十字架と、復活に立ち会います。そしてイエス様が旧約聖書の約束していた世界の救い主であることを人々に伝える召しに従っていきます。

私たちは私たちのすべてを知ってくださるイエス様に出会っていただき、イエス様に私のすべてを赦していただき、また、新しい命のいぶきをふきこんでいただいて、安心して、力をつくして、与えられている歩みを進めます。

生涯をかけて、イエス様に従い、また、生涯をかけてイエス様を大切な友達に伝え、わかちあい、生涯をかけて、人々に感謝をしながら、生涯をかけて、隣人に役立って、育てられて生きていきます。

「愛する神さま、イエス様はナタナエルを弟子としてくださいました。私達もイエス様の弟子となったことを感謝をして、この一週間も喜びにうちに歩んでます。主イエス・キリストのお名前によって祈ります。アーメン」

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン。

讃美歌 515 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 十字架の血に きよめぬれば、「来よ」との御声を 我は聞けり。
 <繰返し> 主よ、われは 今ぞゆく、十字架の血にて きよめたまえ。
- 2 弱き我も みちからを得、この身の汚れを みな拭われん。 <繰返し>
- 3 まごころもて せつにいのる、心みつるは 主のみめぐみ。 <繰返し>
- 4 ほむべきかな わが主のあい、ああほむべきかな わが主のあい。 <繰返し> アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
 みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
 われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
 われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
 国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。 **アーメン**

頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御霊のおお御神に ときわにたえせず み栄えあれ み栄えあれ。 **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

後奏